2C9

重厚長大企業における研究開発戦略

石 川 桂 三　　三菱重工

1. 重厚長大産業の発展と自主技術化への取り組み

戦前・戦後を通し，我が国の経済の発展は工業力によって支えられ，重厚長大産業はその中核を担ってきた。

戦後，重厚長大産業は技術導入をベースに，優れた生産技術により目覚ましい発展を遂げ，昭和４０年代に入り自主技術化の気運の高まりと共に，国産技術による新しい独自の製品を数多く生み出した。

2. 重厚長大産業のリストラクチャリング

現在はエレクトロノクスを中心とする先端分野，軽薄短小分野の技術革新が急速に進展している。

技術革新は人類始まって以来常に進められてきたものであり，各時代において，ブレークスルー的技術が夫々の時代の技術をリードして来た。

重厚長大産業も　先端分野の技術を自分の中に積極的に取込み，軽薄短小産業と共に，より大きな飛躍に挑戦していかねばならない。

3. 三菱重工業の経営戦略

三菱重工業は現在４５，０００人の従業員と年間売上高約２兆円の事業規模を有している。

昭和６３年度に策定した事業計画では，平成３年度の売上高を２兆５０００億円と定め，その中，２５％は先端技術を取り込んだ新製品と生活に密着した新製品が占めることを狙っている。

4. 三菱重工業の研究開発戦略

当社は，昭和６１年８月「基盤技術研究所」を設立し，６２年１１月横浜の金沢地区に新たに建物を作り，１００人程の研究者をここに集めた。

この「基盤技術研究所」は必要があれば，科学技術の領域まで踏み込んだ基礎研究を行い，当社事業の次の時代の基盤となる先端技術や先行基礎技術の研究への取り組みを強化することにより，既に軌道に乗っている既存の研究と協力して，新技術・新製品の開発を一気に加速していくことを狙いとしたものである。

以　　上